

「保育の基本」の習得に関する研究（1）

A study about Learning Foundation of Early Childhood Care and Education (1)

(2012年3月31日受理)

小野 順子

Junko Ono

Key words : 保育現場, 実習, 保育者養成, 基本, 知識

抄 録

本研究では、保育者養成校の学生が、実習前に習得すべき「保育の基本」を明確にし、その習得に有効な時期や方法を検討することで、効果的な保育者養成カリキュラムの構築を目的にする。本稿では、まず知識に注目した。そして、実習での実践に有効な保育の知識を、現場へのアンケート調査、保育士養成課程等検討会の資料の検討により行った。その結果、現場への調査の考察からは、「教育観・保育観・幼児理解・特別支援教育や発達障害・子どもの発達・保育方法・保育内容・保護者支援」であり、保育士養成課程検討会資料からは、「保育（保育者）の原理・教育の原理・福祉（養護）の原理・子どもや家庭の理解」であるという結論を得た。

1. はじめに

保育者養成を目的とした短期大学では、2年間のカリキュラムの中で学生を保育者として育て、保育現場に送り出している。入学時には、保育や子どもについて漠然としたイメージを持っているだけであった学生が、保育に関する知識・技術を学内で学び、学外での実習によってそれを応用する力を身に付けていく。実習は1年が修了した後に行われる。従って、実習という保育現場で活用し応用できる知識・技術を1年間で身に付けなければならない。

筆者は平成20年に、大橋氏・小倉氏と共に保育現場が実習生に望む保育者としての資質に関するアンケートを行い、全国保育士養成協議会第48回研究大会にて報告¹した。その結果明らかとなったことは、現場が学生に強く要求していることは、学生の人間性に関することであった。同様に、平成22年に本学科の実習園の「実習生への要望」を整理した。そこでも高順位であったのは、

人間性に関する項目であった。そこで、授業の中で人間性を高める工夫を行い、一定の成果が出たので平成23年の保育学会にて報告した。²

コミュニケーション力不足が社会の課題となっている現状では、保育者として望まれるものが学生の性格に関わる資質（人間性）であり、その向上を目指すことに異論はない。しかし、専門職である保育者となる学生が当然身に付けておかなければならない保育の知識や技術も存在する。そして、それを、いつ、どのようにして学ぶことが学生にとって有効であるのか。このことが明確になることによって、実習開始前の短い期間で学生は「保育の基本的知識・技術」を確実に身に付けることができ、実習での実践に応用できるのではないかと。

以上のように考え、本研究では実習での実践に結びつく知識・技術の明確化を目指すことを目的とする。

そのために、まず、前述のアンケートを再考し、実習において求められている知識の調査を精査することにより、保育者を目指す学生が、実習前に身に付けておく必

要がある「保育の基本的知識」について、保育現場の考えをまとめる。第二に、平成22年に行われた第6回保育士養成課程等検討会の資料³より、保育の基本的知識に関する科目内容を考察することによって、保育行政の考えをまとめる。第三に、養成校教員の考えをまとめる。多くの養成校教員が保育学生の教育内容や教育方法について論じているが、本研究では、平成23年に全国保育士養成協議会第50回研究大会で発表された研究論文から、保育の基本に関するものを取り上げ整理することによって、行うことにする。最後に、本研究で明らかとなる「保育の基本的知識の習得」に有効な授業場面について考察する。実習前に学生が経験する授業は本学科の場合、学内では、講義形式、グループワーク、模擬保育、子育て支援への参加等がある。また、学外の保育現場に出向く授業もある。これらの授業でどのような取り組みが「保育の基本」の習得に有効であるか考察する。

本研究のプロセスを以上のように考えるが、本稿では、第一の実習生に現場が求めている知識を整理することと、第二の保育行政について考察することとする。

2. 保育現場からの要望

1) 「保育現場が実習生に望む保育者としての資質」に関するアンケートより

この考察の基となる資料は、平成20年に、「保育所実習Ⅰ（施設）の現状と課題」と「保育者養成における望ましい学びの過程」を研究するために、筆者が小倉氏、大橋氏と共に行ったアンケート調査である。アンケート項目は「1. 教育・保育理論に関する知識について 2. 実技に関する知識・技術について 3. 人間関係に関する資質について 4. その他」の4項目であり、回答は全て自由記述とした。

○送付先：○県H県の本学実習依頼施設・園
 保育所以外の児童福祉施設 26箇所
 保育所 21箇所
 幼稚園 53箇所

○実施期間：平成20年11月14日～11月28日

○記入形式：自由記述

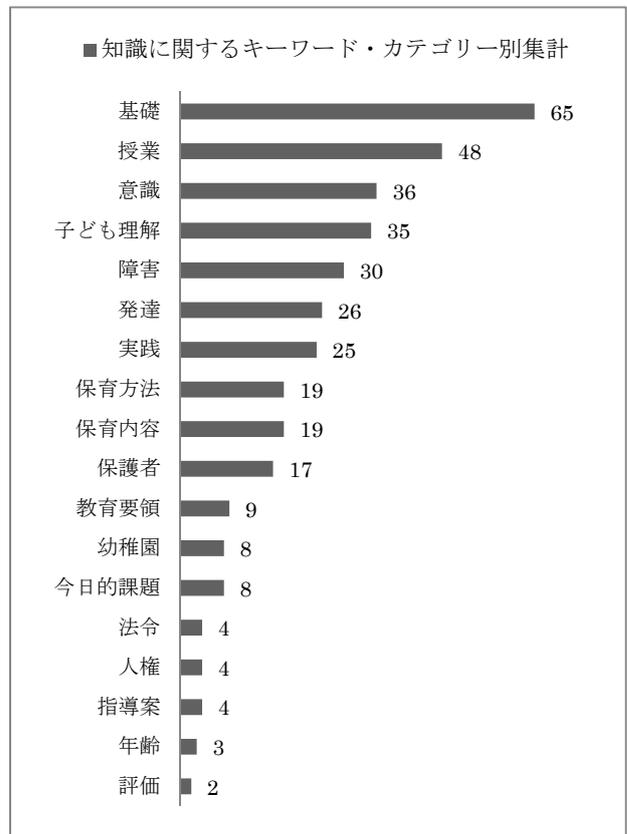
○分析方法：「Word Minder」での分かち書き後キーワードを抽出

本稿の考察対象は、実習で最低限必要と考えられる知識についてであるので、アンケート項目の「1. 教育・保育理論に関する知識について」を考察することにする。

抽出したキーワードを共通する概念に分け、それに合致すると思われる名称をつけ、カテゴリとした。そのキーワードをカテゴリ別に集計したものが、表1である。また、キーワードの詳細は文末に表として載せている。

最も園・施設の数が多かったカテゴリは筆者が「基礎的語彙」と称した語彙群である。こららは、教育・保育理論に関する知識について述べる上での使用に欠かせない語であると考えられる。

表 1



次に多いカテゴリは筆者が「授業」と称した語彙群である。この中には、演習、科目、学校等の大学での授業内容を記述するのに必要な語と心理学、教育学、保育

原理等の大学の授業科目に関する語が含まれている。大学の授業での学びに期待する語彙群と考えられる。

第3に多いカテゴリーは筆者が「意識」と称した語彙群である。これは、社会性、人間性、意欲、希望、楽しさ等の語から構成されているので、保育者としての意識に分類される語彙群であり、教育・保育理論に関する知識について述べられていないと考える。

第4に多いカテゴリーは筆者が「子ども」と称した語彙群である。幼児、子ども、乳幼児等である。保育に関する事項の記述には必要不可欠な語であるが、特に幼児理解についての記述に使用されたと考える。

第5に多いカテゴリーは筆者が「障害」と称した語彙群である。特別支援教育や発達障害の知識を現場は必要としていると考える。

第6に多いカテゴリーは筆者が「発達」と称した語彙群である。いうまでもなく、現場での実践には子どもの発達に関する知識が不可欠である。

第7に多いカテゴリーは筆者が「実践」と称した語彙群である。実践、指導、現場、実際等の語彙が含まれている。これらの語の記述の多さから、実践に結びつく知識を現場は求めているといえるのではないだろうか。

第8と第9に多いカテゴリーは、筆者が「保育方法」と称した語彙群と「保育内容」と称した語彙群であり、同数であった。「保育方法」には、支援、援助、かかわり等、「保育内容」には、内容、環境、遊びと学び、基本的な生活習慣等の語が含まれている。大学の授業の中で理解しておくべき事項が多い。

第10のカテゴリーは筆者が「保護者」と称した語彙群である。保護者、相談、教育相談等、保護者支援に関しても現場は知識を必要としていると考える。

以上の10のカテゴリーの他に、教育要領、幼稚園、今日的課題、法令、人権、指導案、年齢、評価のカテゴリーがあった。

「保育現場が実習生に望む保育者としての資質」に関するアンケートを考察した結果、保育者を目指す学生が、実習前に身に付けておく必要がある「保育の基本的知識」とは、以下のように考えられる。

○1番目に多いカテゴリーの「基礎的語彙」には、「保育・理解・知識・理論的・基本・意味・教育観・幼児

教育・意義・命・基礎的・基本姿勢・全般・専門・保育観・保育理論・本質・道筋・基・理論的」という語が含まれている。これらの語から現場は学生に対して、「教育観」「保育観」というような保育理論をきちんと学んで欲しい、また「道筋」という語が含まれていることから、子どもの発達の知識も望んでいると考える。

○4番目に多いカテゴリーの「子ども」には、「幼児、子ども、乳幼児」等があるので、幼児理解を求めていると考える。

○5番目に多いカテゴリーの「障害」では、特別支援教育や発達障害の知識を現場は必要としていると考える。

○6番目に多いカテゴリーの「発達」である。子どもの発達に関する知識を指していると考えられる。

○8番目に多いカテゴリーの「保育方法」である。これには、支援、援助、かかわり等が含まれている。

○9番目に多いカテゴリーの「保育内容」である。これには、内容、環境、遊びと学び、基本的な生活習慣等の語が含まれている。

○10番目に多いカテゴリーの「保護者」である。保護者、相談、教育相談等、保護者支援に関しても現場は知識を必要としていると考えられる。

以上の考察から、「保育現場が実習生に望む保育者としての資質」の調査結果の再考から明らかとなった「保育の基本的知識」とは、「教育観・保育観・幼児理解・特別支援教育や発達障害・子どもの発達・保育方法・保育内容・保護者支援」であるといえることができる。

2)「幼稚園教育実習に関する調査」から

本学は幼稚園教育実習を依頼している実習園に対して、毎年「幼稚園教育実習に関する調査」(自由記述)を実施している。そこで、その中の2年間の回答を分析し、現場が実習生に望む事項について考察する。幼稚園に限定した理由は、本学の場合、幼稚園教育実習が2年生後期という養成課程の最後に位置するため、学生への要望の水準が高いと考えたからである。分析方法は自由記述の中に多く存在する言葉を抜き出し、キーワードとした。そして、それをカテゴリー別に分類した。

○送付先：〇県H県の本学実習依頼幼稚園

○実施期間と送付園数：

平成21年3月14日～5月29日 62園

平成22年3月9日～7月7日 70園

結果は以下の通りである。アンケート内容から導き出されたキーワードで複数園に記述があったものを示したものが、表2である。

表 2

キーワード	園の数
発 達	2
発達障害	2
幼稚園教育要領の理解	2
指導案を書く	6
園児の安全への配慮	7
絵 本	8
教材研究	8
う た	11
実習課題	12
手 遊 び	13
公平な態度	71
報告すること	69
言葉遣い	67
守秘義務	65
社会人としてのマナー	59
身だしなみ	52
学ぶ気持ち	3
素直さ	9
意 欲	12
笑顔（明るさ）	25
あいさつ	26
積極的姿勢	31
健 康	52

表2に示してあるキーワードを、カテゴリーに分類した。その結果は表3に示した。

まず、キーワードの健康・積極的姿勢・挨拶・笑顔（明るさ）・意欲等は、現場の保育者が「実習に臨む姿勢や態度」であろう。次に、公平な態度・社会人としてのマナー・守秘義務・言葉遣い等のキーワードは、「保育者としての当然身についておくべき意識」として考える。最後に、教材研究・絵本・指導案等のキーワードは「保育者としての知識・技能」ということができるのではな

いだろうか。また、以上のようにキーワードをカテゴリーに分け、その回答の割合を求めた。その結果は図1となった。

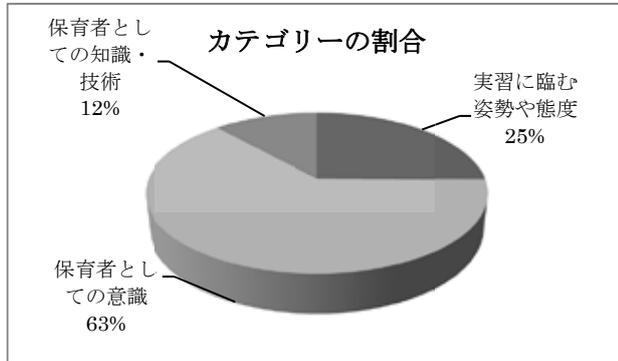
現場から最も要望している保育者の資質とは、「保育者としての意識」や「実習に臨む態度」であったが、「保育者としての知識・技術」も12%であるが、存在した。その中に分類されたキーワードを以下に記す。

発達・発達障害・幼稚園教育要領の理解・指導案を書く
園児の安全への配慮・絵本・教材研究・うた・実習課題・手遊び

表 3

カテゴリー	キーワード	園の数	合計
保育者としての知識・技術	発 達	2	71
	発達障害	2	
	幼稚園教育要領の理解	2	
	指導案を書く	6	
	園児の安全への配慮	7	
	絵 本	8	
	教材研究	8	
	う た	11	
	実習課題	12	
	手 遊 び	13	
保育者としての意識	公平な態度	71	383
	報告すること	69	
	言葉遣い	67	
	守秘義務	65	
	社会人としてのマナー	59	
	身だしなみ	52	
実習に臨む姿勢や態度	学ぶ気持ち	3	158
	素直さ	9	
	意 欲	12	
	笑顔（明るさ）	25	
	あいさつ	26	
	積極的姿勢	31	
	健 康	52	

図 1



「幼稚園教育実習に関する調査」の考察結果は、以下のように考えられる。

保育者を目指す学生が、実習前に身に付けておく必要がある「保育の知識」とは、発達に関する知識、発達障害に関する知識、保育の方法や内容に関する知識である。保育の方法とは、幼児の安全に関する知識であり、保育の内容とは、絵本やうた、手遊び等の実習生が最初に行う指導の教材に関する知識であると考えられる。従って、指導案や実習課題を支える知識が本研究で求めている保育の基本的知識ではないだろうか。

現場が実習生に望む「保育に関する知識」は様々であったが、実践的なことが多かった。そして、保育そのものに関わる知識、例えば保育所保育指針等についての知識等を具体的に示した園が少なかった。その理由として、考えられるのは、実習園の担当者は学生が実習前に身につけているのは当然であると考えて、保育そのものに関わる知識を省略し、基礎基本の知識の補完の部分をアンケートに記入したのではないかということである。

3. 保育士養成課程等検討会資料の考察

平成22年に行われた第6回保育士養成課程等検討会の資料より、保育の基本的知識に関する科目内容を考察する。保育士資格に必要な教科のカテゴリーは、保育の表現技術、保育の本質・目的の理解に関する科目、保育の対象の理解に関する科目、保育の内容・方法の理解に関する科目、総合演習、保育実習となっている。いずれのカテゴリーも重要であるが、基本となる知識という観点から考えると、保育の本質・目的の理解に関する科目、保育の対象の理解に関する科目、保育の内容・方法の理

解に関する科目が該当すると考える。⁴以下にこれらのカテゴリーの科目と科目内容を記し、重要視されていると思われる項目を選出することによって、保育の基本的知識を整理する。

<保育の本質・目的の理解に関する科目>

これに属するのは、保育原理、教育原理、児童家庭福祉、社会福祉、相談援助、社会的養護、保育者論である。以下に科目毎の内容を記す。⁵

a. 保育原理

保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の目標と方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と課題

b. 教育原理

教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性、教育の思想と歴史的変遷、教育の制度、教育の実践、生涯学習社会における教育の現状と課題

c. 児童家庭福祉

現代社会における児童福祉の意義と歴史的変遷、児童家庭福祉と保育、児童家庭福祉の制度と実施体系、児童家庭福祉の現状と課題、児童家庭福祉の動向と展望

d. 社会福祉

現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、社会福祉の制度と実施体系、社会福祉における相談援助、社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み、社会福祉の動向と課題、

e. 相談援助

相談援助の概要、相談援助の方法と技術、相談援助の具体的展開、事例分析

f. 社会的養護

現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷、社会的養護と児童家庭福祉、社会的養護の制度と実施体系、施設養護の実際、社会的養護の現状と課題

g. 保育者論

保育者の役割と倫理、保育士の制度的位置づけ、保育士の専門性、保育者の協働、保育者の専門職的成長

保育の本質・目的理解では、福祉の意義や変遷を中心にし、教育との関連性を押さえながら、保育の意義や保育者の立場を明らかにしている。

<保育の対象の理解に関する科目>

これに属するのは、保育の心理学ⅠⅡ、子どもの保健ⅠⅡ、子どもの食と栄養、家庭支援論である。以下に、科目毎の内容を記す。

a. 保育の心理学Ⅰ

保育と心理学、子どもの発達理解、人との相互的にかわりと子どもの発達、生涯発達と初期経験の重要性

b. 保育の心理学Ⅱ

子どもの発達と保育実践、生活や遊びを通じた学びの過程、保育における発達援助

c. 子どもの保健Ⅰ

子どもの健康と保健の意義、子どもの発育・発達と保健、子どもの疾病と保育、子どもの精神保健、環境及び衛生管理並びに安全管理、健康及び安全の実施体系

d. 子どもの保健Ⅱ

保健活動の計画及び評価、子どもの保健と環境、子どもの疾病と適切な対応、事故防止及び健康安全管理、心とからだの健康問題と地域保健活動

e. 子どもの食と栄養

子どもの健康と食生活の意義、栄養に関する基本的知識、子どもの発育・発達と食生活、食育の基本と内容、家庭や児童福祉施設における食事と栄養、特別な配慮を要する子どもの食と栄養

f. 家庭支援論

家庭支援の意義と役割、家庭生活を取り巻く社会的状況、子育て家庭の支援体制、多様な支援の展開と関係機関との連携

保育の対象理解では、保育の対象を子どもと家庭と捉え、子どもの発達、遊びの影響、子どもの身体的精神的発達のための環境と栄養、家庭の社会的状況から子どもと家庭の理解を勧めている。

<保育の内容・方法の理解に関する科目>

これに属するのは、保育課程論、保育内容総論、保育内容演習、乳児保育、障がい児保育、社会的養護内容、保育相談支援である。

以下に、科目毎の内容を記す。

a. 保育課程論

保育の計画と評価の基本、保育所における保育の計画、保育の計画の作成と展開、保育所における保育の評価

b. 保育内容総論

保育の基本と保育内容、保育内容の変遷、保育内容と子ども理解、保育の基本を踏まえた保育内容の展開、保育の多様な展開

c. 保育内容演習

養護と教育（健康、人間関係、環境、言葉及び表現の5領域）の観点から、総合的に保育内容を理解する。

d. 乳児保育

乳児保育の理念と役割、乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発達と保育内容、乳児保育の実際、乳児保育における連携

e. 障がい児保育

障がい児保育を支える理念、障がい児の理解と保育における発達の援助、障がい児保育の実際、家庭及び関係機関との連携、障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題

f. 社会的養護内容

社会的養護における児童の権利擁護と保育士等の倫理及び責務、社会的養護の実施体系、支援の計画と内容及び事例分析、社会的養護にかかわる専門的技術、今後の課題と展望

g. 保育相談支援

保育相談支援の意義、保育相談支援の基本、保育相談支援の実際、児童福祉施設における保育相談支援

保育の内容・方法の理解では、保育の本質や目的、保育の対象の2つが関わっている。さらに、保育の対象として乳児、障がい児の理解、また、保育の方法の具体的指導として保育の計画や保育相談もここに含まれている。

以上の考察から、保育（保育者）の原理、教育の原理、福祉（養護）の原理の3つが一体化し、保育の本質・目的の理解に関する科目を構成している。そして、保育の対象の理解に関する科目での保育の対象とは、子どもと家庭である。最後に、保育の内容・方法の理解に関する科目においては、上記の2つ（保育の本質・目的の理解に関する科目と保育の対象の理解に関する科目）において修得した「保育の本質・目的」と「保育の対象」の知識を応用する科目内容であると考えられる。

従って、保育士養成課程の考察では、本稿で明らかとしたい「実習での実践に結びつく保育の基本的知識」は、保育の本質・目的の理解に関する科目である、保育（保育者）の原理・教育の原理・福祉（養護）の原理であり、保育の対象の理解に関する科目の、子どもと家庭の理解であると考えられる。

4. おわりに

保育の現場で実際に子どもに向き合う時必要である知識、実習での実践に結びつくことで深まる知識等、実習前に学生が修得すべき知識について考察を試みた。そして、短期大学の場合、実習前の期間が1年という短期間でありそこで修得する知識の量を少なくしたいという思いから、多種多様な知識の中から「基本的」な知識について考察し、結論を得た。

今回取り上げたのは、現場からの要望としての「保育の基本的知識」と養成課程で要求されている「保育の基本的知識」である。今後は、本稿のプロセスで述べたように養成校教員の見解をまとめ、共通点を考察する。そして、それらの「保育の基本的知識」が短期大学の授業での修得に有効な授業方法や内容について考察することとする。この時、学生の興味、学習意欲も調査しその結果も考慮する。

保育者養成校学生の実態研究には、現在の学生の問題点として、「学生の基礎的な学力が低下しただけでなく、『勉強しよう』という学習意欲そのものが著しく低下してしまった。（中略）理論系の科目に関心を寄せないことは、学生が『筋道を立てて考えようとしていない』ことを示しているのではないだろうか。」⁶との意見が多いからである。

表 5

カテゴリ	キーワード	園/施設の数	園/施設合計	項目数
保育者としての意識	自分	5	36	26項目
	教師	3		
	社会性	2		
	専門的	2		
	人間性	2		
	保育者	2		
	管理	1		
	意識	1		
	意識	1		
	意識高揚	1		
	意欲	1		
	感覚	1		
	希望	1		
	教育職意識	1		
	健康	1		
	健康	1		
	姿勢	1		
	自分自身	1		
	社会性	1		
	充実	1		
専門職	1			
専門性	1			
立場	1			
楽しさ	1			
保育士	1			
役割	1			
基礎的語彙	保育	15	65	21項目
	理解	15		
	知識	9		
	理論的	4		
	基本	3		
	意味	2		
	教育観	2		
	幼児教育	2		
	意義	1		
	命	1		
	基礎的	1		
	基礎的	1		
	基本姿勢	1		
	全般	1		
	専門	1		
	保育観	1		
	保育理論	1		
本質	1			
道筋	1			
基	1			
理論的	1			
教育	教育	16	16	1項目
教育要領	要領	2	9	8項目
	改定	1		
	改定幼稚園	1		
	改定	1		
	教育要領	1		
	教育要領改定	1		
	要領	1		
幼稚園教育要領	1			
個人情報	個人情報	1	1	1項目

カテゴリ	キーワード	園/施設の数	園/施設合計	項目数
子ども	幼児	14	35	11項目
	子ども	7		
	幼児理解	5		
	実態	2		
	小児	1		
	ひとり	1		
	幼児期	1		
	幼児自身	1		
	個性	1		
	子ども	1		
	乳幼児	1		
今日的課題	現状	2	8	7項目
	ニーズ	1		
	今	1		
	近年	1		
	現代	1		
	今日的	1		
実践	実践	6	25	12項目
	指導	6		
	現場	2		
	実際	2		
	保育実践	2		
	インターン	1		
	具体化	1		
	具体的	1		
	実習	1		
	就職	1		
事例	1			
ボランティア	1			
指導案	計画	1	4	4項目
	指導案	1		
	指導計画	1		
	作成	1		
大学の授業・授業科目	演習	3	48	36項目
	科目	4		
	課題	3		
	学校	2		
	教育原理	2		
	工夫	2		
	原理	2		
	心理学	2		
	開講	1		
	開講科目	1		
	課題解決	1		
	課程	1		
	課程 教育課程	1		
	カリキュラム	1		
	教育学	1		
	教養	1		
	教養科目	1		
	組み方	1		
	社会教育学	1		
	授業	1		
授業展開	1			
小児保健	1			
心理学	1			
心理学全般	1			

カテゴリ	キーワード	園/施設の数	園/施設合計	項目数			
大学の授業・授業科目	専門科目	1	30	8項目			
	単位数	1					
	発達心理	1					
	保育原理	1					
	保育者基礎演習	1					
	保育者論	1					
	保健	1					
	目的	1					
	幼小連携	1					
	幼小連携	1					
	留意点	1					
	連携	1					
	障害	特別			9	30	8項目
		特別支援			6		
障害		3					
障害 発達障害		3					
障害児		3					
特別支援教育		3					
障害児教育		2					
障害児保育	1						
人権	人権	2	4	3項目			
	人権意識	1					
	人権意識	1					
年齢	6歳児	1	3	3項目			
	年齢	1					
	年齢 各年齢	1					
発達	発達	14	26	9項目			
	把握	3					
	発達 段階	2					
	発達段階	2					
	成長	1					
	成長過程	1					
	発達 正常発達	1					
	発達課題	1					
発達理論	1						
評価	観点	1	2	2項目			
	評価	1					
保育内容	内容	5	19	12項目			
	環境	3					
	遊びと学び	2					
	活動	1					
	環境教育	1					
	言葉	1					
	食育	1					
	生活	1					
	基本的	1					
	基本的生活習慣	1					
	習慣	1					
	保育内容	1					
保育方法	支援	11	19	9項目			
	うながし	1					
	援助	1					
	かかわり	1					
	関わり方	1					
	関係づくり	1					
	クラス	1					
	クラス活動	1					
	保育構成	1					

「保育の基本」の習得に関する研究（1）

カテゴリ	キーワード	園/施設 の数	園/施設 合計	項目数
法令	学校教育法	1	4	4項目
	教育法	1		
	法規	1		
	法令	1		
保護者	保護者	6	17	9項目
	相談	3		
	相談（教育相談）	2		
	家庭	1		
	家庭教育	1		
	子育て	1		
	保護者 親	1		
	保護者 父母	1		
	保護者理解	1		
幼稚園	幼稚園	7	8	2項目
	幼稚園教育	1		

- 1 大橋・小野・小倉「保育者養成における望ましい学びの過程（1）（2）」全国保育士養成協議会第48回研究大会研究発表論文集 2009 p86-89
- 2 小野「保育者に保育者の資質として重要視されている『人間性』の育成について」日本保育学会第64回大会発表要旨集 2011 p373
- 3 保育士養成課程等検討会「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）案」 2010
- 4 上掲書3（別紙1）
- 5 科目名と内容は、上掲書3の（別紙2）の抜粋である。
- 6 佐藤「保育者を目指す学生の生活と学習について」全国保育士養成協議会第49回研究大会研究発表論文集 2010 p98

